

令和2年度・令和3年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校委嘱
平成30年度・令和元年度・令和2年度桶川市教育委員会委嘱
平成30年度・令和元年度・令和2年度桶川市教育研究会委嘱

研究紀要

[研究主題]

豊かな心を育む道徳教育の充実

～「考え、議論する」道徳の実践を中心として～



令和2年10月22日(木)

埼玉県桶川市立桶川西中学校

〒363-0027 埼玉県桶川市川田谷3680-1

TEL 048-787-1342

FAX 048-787-3564

桶川市教育委員会教育長あいさつ

桶川市教育委員会教育長 岩田 泉

桶川市立桶川西中学校におかれましては、平成30年度より桶川市教育委員会及び桶川市教育研究会の3年間研究委嘱、また、令和2年度より埼玉県教育委員会の埼玉県道徳教育研究推進モデル校として2年間の委嘱を受け、研究主題「豊かな心を育む道徳教育の充実～『考え、議論する』道徳の実践を中心として～」をテーマに、熱心に研究に取り組んでこられました。ここにその成果を発表されますことに深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

本校においては、道徳教育における課題を踏まえ、令和元年度からの道徳の教科化をふまえ、道徳教育に取り組んでこられました。その成果として、道徳の授業を楽しんでいる生徒が84%、物事を多面的・多角的に考えられる生徒が92%にもものぼり、道徳の授業の充実と心豊かな生徒の育成が図られてきていると推察いたします。

結びに、相澤校長をはじめ教職員の皆様のご尽力に深く感謝を申し上げます。また、研究の推進にあたり熱心にご指導・ご支援くださいました指導者の皆様、多くの関係者の方方に心より感謝申し上げますとともに、桶川西中学校の生徒の皆さんの学校生活の充実と成長を心よりお祈りし、あいさつといたします。

学校長あいさつ

桶川市立桶川西中学校長 相澤 仁志

本校では、平成30年度より桶川市教育委員会・桶川市教育研究会の委嘱を受け、また令和2年度からは「埼玉県道徳教育研究推進モデル校」として「豊かな心を育む道徳教育の充実～『考え、議論する』道徳の実践を中心として～」をテーマに特別の教科「道徳」の研究に取り組んで参りました。本日に至るまで、埼玉県教育局南部教育事務所教育支援担当 指導主事 沢口 裕 様を初め、多くの指導者の皆様方にご指導・ご助言を頂きましたことに、厚く御礼申し上げます。

本日ここに、その研究の一端を発表させていただく事になりました。本研究は本校の課題の一つである「不登校」への取り組みにおいて、道徳の授業を通して、互いに認め合い、一人一人の「豊かな心」の育成を目指すものでもあります。3年間の研究期間があったとはいえ、研究も実践も十分とは言えず、道半ばでの発表となりましたが、これで終わりとはせず、今後も子供たちのために、引き続き研究を進めて参りたいと思います。

結びに、ご多用中にも関わらず、多くの皆様方にご参会頂きましたことに心から感謝を申し上げ、あいさつといたします。

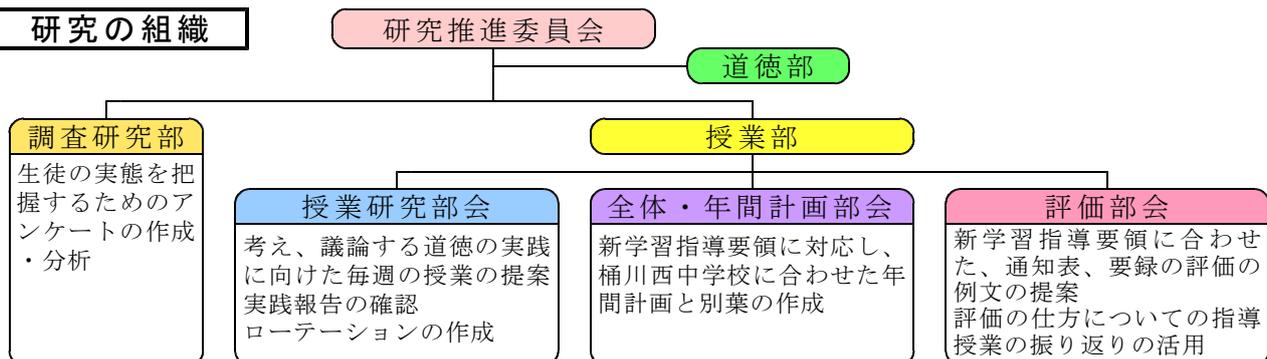
主題設定の理由

令和元年度の道徳の教科化に伴い、教員の指導力と生徒の道徳的実践力の向上を目指し、全職員で組織的に取り組むこととした。本校生徒の課題として、自分の考えや心境を自由に表現したり発表したりする姿勢に欠け、道徳の授業をはじめとする議論の場において活発な意見交換が見られないことがあげられる。この課題に対し①考え、議論することを目指した道徳の授業の実践と効果的な実施方法の検討、②教材・教具の作成、③全体計画・年間指導計画の作成、④評価方法の検討と通知表等の評価例文の作成、を全職員で取り組むことで克服が果たせると考え本主題を設定した。

研究仮説

「考え、議論する」道徳の実践を中心として、意図的・計画的な学習を積み重ねることにより、生徒の道徳的実践意欲が生まれ、道徳教育の充実が図られるだろう。

研究の組織



研究の計画



研究の方向性

- (1) 授業の実践と指導力の向上
 - 1 教材を複数のクラスで実施するローテーション計画の作成と実施
- (2) 教材・教具の作成

考え、議論する場を設けた授業の実践と実践報告書を通じた教材教具の共有
- (3) 全体計画・年間指導計画の作成

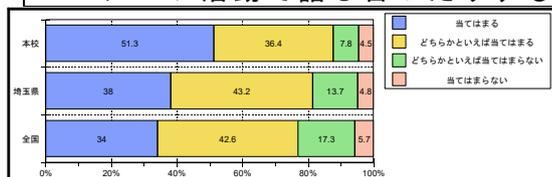
教科化に合わせた全体計画と年間指導計画の再検討と各教科とのつながりを示した別葉の作成
- (4) 評価方法の検討

授業の振り返りシートを活用した生徒の活動の様子記録とそれを踏まえた評価例文の作成

全国学力・学習状況調査、埼玉県学力学習状況調査の結果

○全国学力・学習状況調査 生徒質問紙より

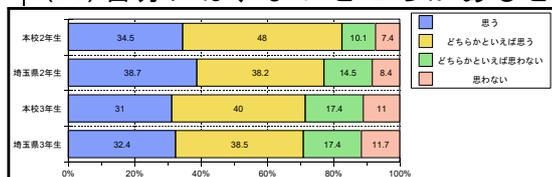
(39) 1、2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループ活動で話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。



昨年度3年生(取り組み始めて2年目)の集計結果であるが、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が87.8%と埼玉県や全国の傾向と比べても数値が高く、本校の取組が生徒にも浸透し、実践されてきていることが表れている。

○埼玉県学力・学習状況調査 生徒質問紙調査より

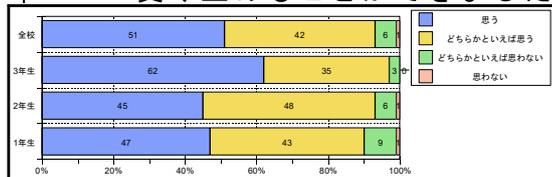
(16) 自分には、よいところがあると思いますか。



この取組を通して自己有用感や自己肯定感が育まれることを期待しているが、昨年度の県学テの質問紙から、このことに関係があると思われる項目では、おおむね良い回答が得られており、埼玉県と同等かそれ以上の数値になっている。

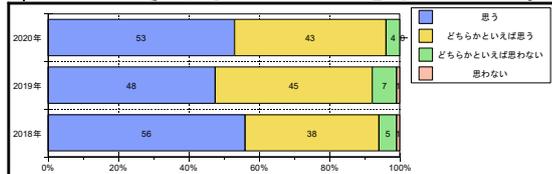
アンケートの結果および分析

問2 道徳の授業では、他者の意見を聞き、自分と違う考え方や感じ方を理解し、受け止めることができましたか。(2020年7月実施アンケート結果から)



考え、議論する道徳を実践するにあたり、他者の意見を聞くこと、それを自分の内側で咀嚼し受け止め、道徳心や実践力を高めることは大きな目的である。全校で93%と高い数値を示していることはよい傾向として捉えることができる。また、学年が上がるにつれ「思う」「どちらかといえば思う」の数値が高い傾向は、高学年ほどより深く考え受け止めることができている結果として読み取ることができる。

問3 道徳の授業では、時と場合や、あらゆる人の立場に立って、色々な角度から考えることができましたか。(3年間のアンケートの現3年生の推移から)



当初から高い数値を示しているものの、学年が上がるにつれ、「思う」「どちらかといえば思う」の数値が微増している。「思う」の数値が伸びていないことは課題ではあるが、高学年ほど取り扱う内容に、より考える観点や心情に深さが増すことも影響があると考える。ローテーションによる授業実践を継続し、生徒のより深い考え方に対応できる指導力を学校全体の課題として伸ばしていきたい。

ローテーションによる授業実践を継続し、生徒のより深い考え方に対応できる指導力を学校全体の課題として伸ばしていきたい。

具体的な取組

…いずれの取組も「研究のまとめ」の冊子に詳細を掲載しました。

【授業研究部】

- 考え、議論する道徳の授業を実践するために、毎週の授業の計画と提案をする。
- 学年教員が1つの教材を各クラスで行うローテーション期間を設け、その計画を作成した。(右図)
- 各教員が本研究を通して高めてきたことを記録伝達するために、毎年1回分の実践報告書を作成した。

【全体・年間計画部会】

- 新指導要領に対応し、西中の現状と照らし合わせながら、毎年度計画を見直しつつ年間計画表を作成した。(下図)
- 道徳的実践力を高めるために、教科横断的な視点から、各教科との関わりを示す「別葉」を学年ごとに作成した。道徳の授業時間にとらわれずに、各教科においても道徳的実践力の育成に努めた。(下図)

令和2年度 赤学年 道徳日程(ローテーション1)

1期	7月	7日	ローマ	2期	7月	14日	ローマ	3期	7月	21日	ローマ	4期	7月	28日	ローマ	5期	8月	4日	ローマ	6期	8月	11日	ローマ	7期	8月	18日	ローマ	8期	8月	25日	ローマ
1期	7月	14日	ローマ	2期	7月	21日	ローマ	3期	7月	28日	ローマ	4期	8月	4日	ローマ	5期	8月	11日	ローマ	6期	8月	18日	ローマ	7期	8月	25日	ローマ	8期	9月	1日	ローマ

※4期以降は予定外。

※1期～8期は、各期ごとに1週間ずつローテーションを行う。

※1期～8期は、各期ごとに1週間ずつローテーションを行う。

※1期～8期は、各期ごとに1週間ずつローテーションを行う。

H31年度 桶川市立桶川西中学校 第1学年 道徳 年間指導計画

期	週	教科名	学習指導要領の範囲	主題	ねらい	主な教科	教材種別
1	1	道徳	道徳(1)	道徳的実践力の育成	道徳的実践力の育成	道徳	道徳
1	2	道徳	道徳(2)	道徳的実践力の育成	道徳的実践力の育成	道徳	道徳
1	3	道徳	道徳(3)	道徳的実践力の育成	道徳的実践力の育成	道徳	道徳
1	4	道徳	道徳(4)	道徳的実践力の育成	道徳的実践力の育成	道徳	道徳

教師振り返りシート

授業名	道徳(1) 道徳的実践力の育成
日時	2020.7.14
出席者	道徳科 道徳(1) 道徳(2) 道徳(3) 道徳(4)
出席理由	道徳科 道徳(1) 道徳(2) 道徳(3) 道徳(4)
振り返り	道徳科 道徳(1) 道徳(2) 道徳(3) 道徳(4)

【評価部会】

- より適切な評価を実践するための評価方法や評価規準、評価例文を検討し、通知表や指導要録の評価に生かした。
- 評価がローテーションの授業に対応できるように、授業者が授業の内容を記録伝達する方法として「教師振り返りシート」を活用した。(上右図)

【調査研究部】

- 生徒の実態や研究の進捗状況を把握するために、年1回のアンケートを実施した。おおむね高い数値を示したが、道徳の授業に対する姿勢や考え、議論する道徳の授業が実践されており、ある程度の効果を得られた。

成果と課題

本委嘱研究は、新学習指導要領への対応と道徳が特別の教科として実施されることを踏まえて、事前からの準備とスムーズなスタート、計画的な実施を目指すとともに、前年度まで取り組んできた教科における「考え、議論する授業」を継承しつつ行ってきた。

初年度は教科化への対応策が中心の研修になった。授業のローテーションの実施、年間計画・別葉の作成などを行い、土台を築くことができた。特に授業をローテーションすることで「考え、議論する」授業を実践するとともに、題材への教材研究が進み、教員の指導力が上がったことはほとんどの教員が実感することができた。一方で、評価の方法や評価例文については先行する研究も少なく対応が難しいことも感じられた。

2年次は初年度の研究をもとに修正を図るとともに、「考え、議論する」授業の深化を南部教育事務所沢口先生の御指導のもと進め、さらに評価方法と評価例文の改善を図った。

本年度は、それぞれの部会ごとに研究内容を総括するとともに、授業ローテーションの継続、評価シートの活用、実践報告書のまとめ、アンケートの集約と分析を行った。本校はとても素直で穏やかな生徒が多く、研究を始めた当初から道徳の授業に対する姿勢は前向きで、それはアンケートにも表れていた。数値上では微増となったが、本研究を通して「考え、議論する」道徳の授業は教員・生徒ともに浸透しつつあることは実感できる。これらの取組を継続して、本校の道徳的実践力をさらに向上させていきたい。